

★敬老祝賀式 10時00分～

1. 開 会
2. 式 辞
3. 来 賓 祝 辞
4. 来 賓 紹 介
5. 祝 電 披 露 会
6. 閉 会

★敬老祝賀会 10時30分～

10:30- ①生き・生き・元気に

暮らせる地域をめざして

小国駐在所から

生活支援コーディネーターから

10:40- ②アトラクション

八千代神楽団「八岐大蛇」

11:30- ③フレイル予防体操

健康運動トレーナー 青原 徹 さん

④抽選会

★閉 会 正午終了予定

敬老会 祝辞

今年は例年になく梅雨が短く、早くから厳しい暑さが続いて
おります。残暑なお厳しい折ではございますが、皆様にはお健
やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。

また、日頃より小国地区振興協議会の活動に対し、温かいご
理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

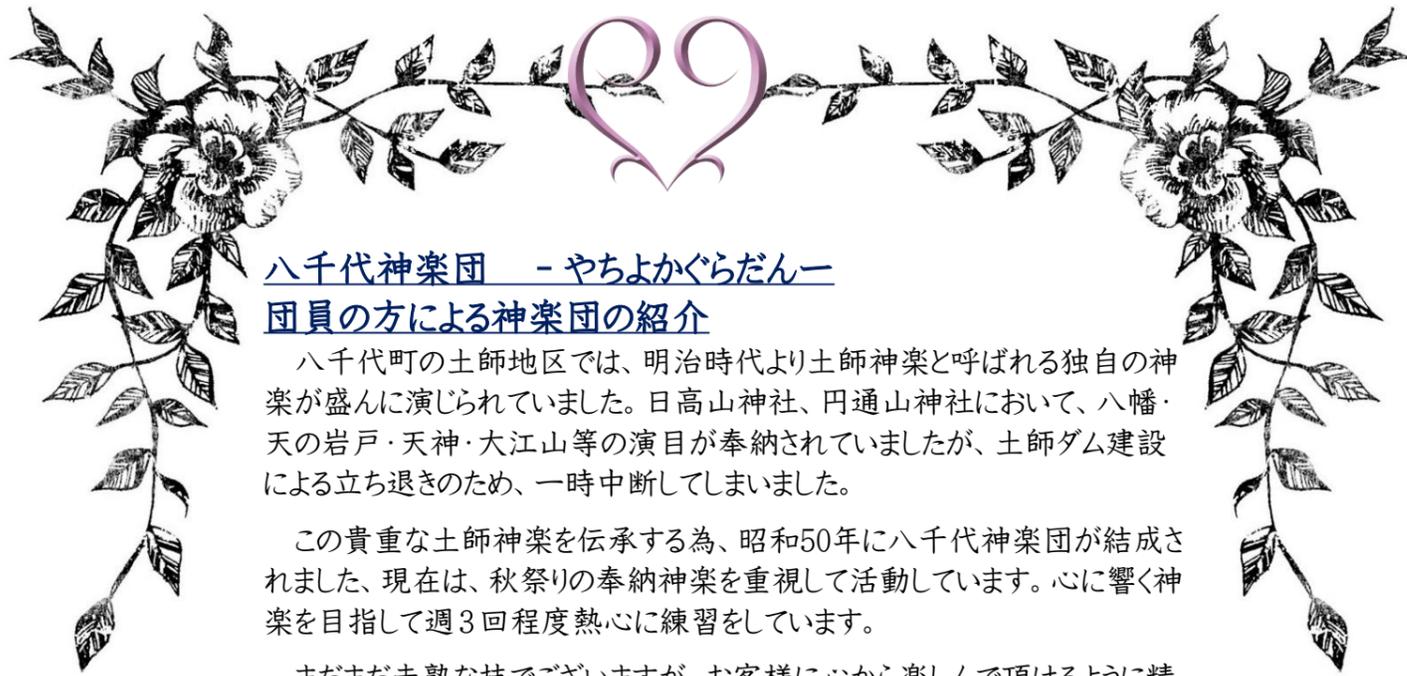
本日は、「小国地区敬老会」において、多くのご来賓の皆様、
そして敬老の対象となられた皆様にご出席いただき、誠にあり
がとうございます。

さて、小国地区振興協議会は、本年度より5年にわたり、世
羅町小国自治センターの指定管理について、世羅町と基本協定
を締結しました。少子高齢化が進む中で、私たちの地域もいろ
いろな課題に直面していますが、これからも地域の皆さまと力
を合わせて知恵を出し合い、皆さまの声にしっかりと耳を傾け
ながら、住みよい地域づくりを進めてまいります。

長きにわたり地域を支えてこられた皆様のご尽力に、改めて
深く感謝申し上げます。今後も、高齢者福祉の充実を図り、誰
もが安心して暮らせる、笑顔あふれるまちづくりに努めてまい
ります。

どうか皆様には、これからもお元気で、健やかに、幸せな
日々をお過ごしになられますよう、心よりご健康とご長寿をお
祈り申し上げ、祝辞とさせていただきます。

小国地区振興協議会
会 長 薮花 睦二



八千代神楽団 - やちよかぐらだん -
団員の方による神楽団の紹介

八千代町の土師地区では、明治時代より土師神楽と呼ばれる独自の神楽が盛んに演じられていました。日高山神社、円通山神社において、八幡・天の岩戸・天神・大江山等の演目が奉納されていましたが、土師ダム建設による立ち退きのため、一時中断してしまいました。

この貴重な土師神楽を伝承する為、昭和50年に八千代神楽団が結成されました。現在は、秋祭りの奉納神楽を重視して活動しています。心に響く神楽を目指して週3回程度熱心に練習をしています。

まだまだ未熟な技でございますが、お客様に心から楽しんで頂けるように精一杯演じますので、皆様の温かいご声援、よろしくお願い致します。

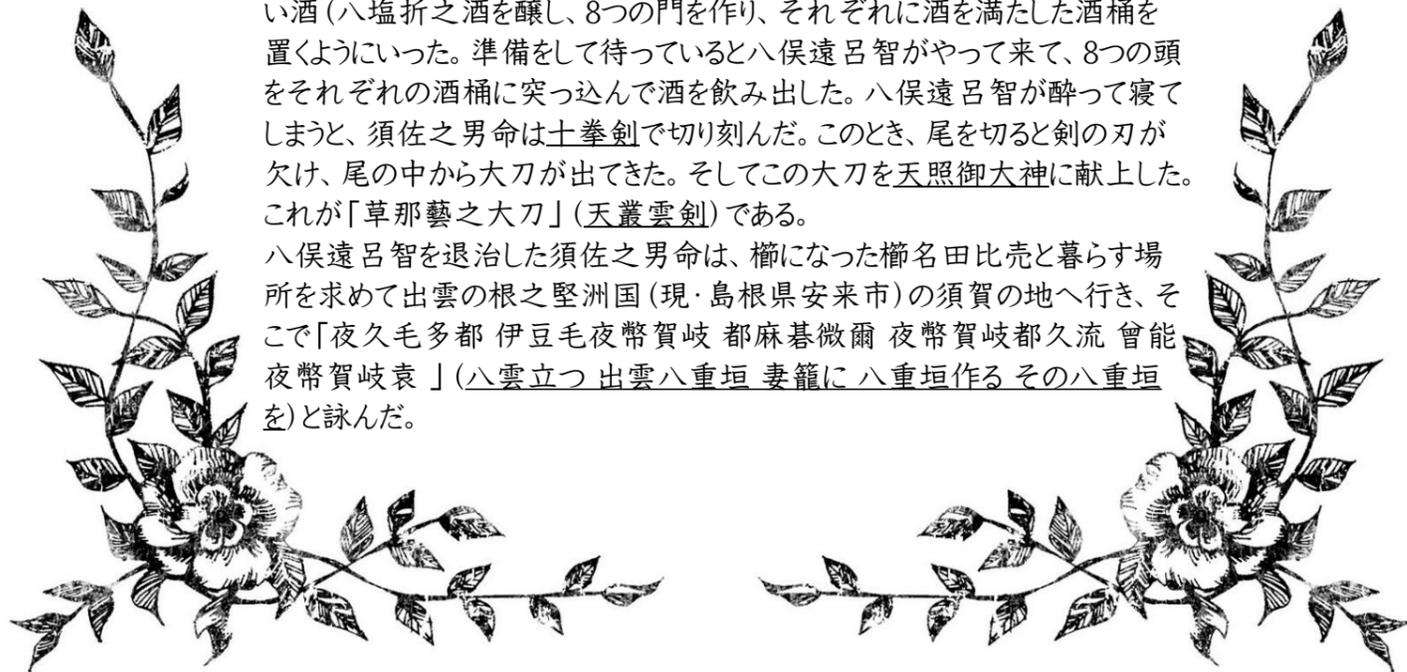
八岐大蛇のあらすじ 古事記[編集]から

石見神楽演目：大蛇(おろち) 高天原を追放された須佐之男命(スサノオノミコト)は、出雲国の肥河(島根県斐伊川)の上流の鳥髪(現・奥出雲町鳥上)に降り立った。箸が流れてきた川を上ると、美しい娘を間に老夫婦が泣いていた。その夫婦は大山津見神の子の足名稚命と手名稚命であり、娘は櫛名田比売(くしなだひめ)といった。

夫婦の娘は8人いたが、年に一度、高志から八俣遠呂智という8つの頭と8本の尾を持った巨大な怪物がやって来て娘を食べてしまう。今年も八俣遠呂智の来る時期が近付いたため、最後に残った末娘の櫛名田比売も食べられてしまうと泣いていた。

須佐之男命は、櫛名田比売との結婚を条件に八俣遠呂智退治を請け負った。まず、須佐之男命は神通力で櫛名田比売の形を変えて、歯の多い櫛にして自分の髪に挿した。そして、足名稚命と手名稚命に、7回絞った強い酒(八塩折之酒を醸し、8つの門を作り、それぞれに酒を満たした酒桶を置くようにいった。準備をして待っていると八俣遠呂智がやって来て、8つの頭をそれぞれの酒桶に突っ込んで酒を飲み出した。八俣遠呂智が酔って寝てしまうと、須佐之男命は土拳剣で切り刻んだ。このとき、尾を切ると剣の刃が欠け、尾の中から大刀が出てきた。そしてこの大刀を天照御大神に献上した。これが「草那藝之大刀」(天叢雲剣)である。

八俣遠呂智を退治した須佐之男命は、櫛になった櫛名田比売と暮らす場所を求めて出雲の根之堅洲国(現・島根県安来市)の須賀の地へ行き、そこで「夜久毛多都 伊豆毛夜幣賀岐 都麻基微爾 夜幣賀岐都久流 曾能夜幣賀岐袁」(八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣作る その八重垣を)と詠んだ。



令和7年度
小国地区敬老会



と き 令和7年9月14日(日)
 と こ ろ せらにしタウンセンター

主 催 小国地区振興協議会
 後 援 世 羅 町
 世羅町社会福祉協議会
 J A 尾 道 市
 小 国 郵 便 局
 協力団体 せらにし女性会
 いきいきシニア・小国

